



心臓ペースメーカー治療について

今回は、心臓ペースメーカー治療を取り上げます。高齢社会の国内では、80歳以上の高齢者の80〜90人に一人が心臓ペースメーカー植込み患者です。寿命の延長に伴い今後ますます増加することが予想されています。元気で長生きしていただくためには、これらの心臓デバイス治療を安全に管理することが重要です。

心臓ペースメーカー手術治療はくらて病院でもできますか

心臓ペースメーカー治療は、心拍数が極端に遅くなる、あるいは心停止をきたす徐脈性不整脈がある患者の治療として行われていて確立したデバイス治療で、国内では年間およそ4万人もの新規患者がこの治療の恩恵を受けています。私はこの心臓ペースメーカー治療が専門で、積極的にを行っています。くらて病院に赴任した昨年4月から本年2月までに既に14名の患者さんにペースメーカー植込手術を行いました。局所麻酔で手術時間も1時間以内と短いので、患者の負担は少なく、高齢者でも安心して受けられる治療です。ペースメーカー治療が必要と言われたら、ぜひくらて病院にご来院ください。

ペースメーカー植込手術に伴う合併症が怖いのですが

心臓ペースメーカー植込手術に伴う合併症には、様々なものがあります。最も頻度の高い合併症は気胸です。それ以外にもデバイス感染、リードの移動、心タンポナーデなど種々あります。これら合併症の発生頻度は一般的には2〜4%程度とされて

いますが、私が経験した1,500名以上のペースメーカー植込手術では、1%以下と非常に稀で、国内でもトップクラスの手術症例数です。医師個人の臨床経験や知識により合併症の発生頻度は大きく異なりますが、私自身は心臓デバイス治療の経験は豊富で最も得意とする専門領域ですので、安心して受けられてください。

手術の入院期間はどれくらいですか

入院期間の平均はおおよそ2週間以内です。手術は局所麻酔で1時間以内で終わりますが、鎖骨下にペースメーカー本体を固定するために5〜6cm程度の皮膚切開が必要で、抜糸に1週間かかります。ただし、患者の多くは、高齢者で他に併発症(心不全など)を持っているケースも多く、それらの治療も併せて行うと入院から退院までに2週間程度かかります。

ペースメーカー植込後に日常生活で気をつけることはありますか

退院後の日常生活は普通に行えますが、生活環境・職場環境・医療環境において注意すべき点があります。心臓ペースメーカーは高性能のIC回路を含む医療機器であり、磁場の影響を受けると電磁干渉をきたすことがあります。しかし、多くは一過性であり、その場から離れたと自然に回復します。電磁調理器・IH炊飯器・携帯電話・盗難防止装置などは影響を及ぼす可能性があります。退院時にお渡しするペースメーカー手帳に注意点がまとめて記載されていますので、患者さん自身が十分理解して注意書きを守っ

ていただくことが重要です。ペースメーカー植込前には失神していた患者さんでも、ペースメーカー治療後には自動車運転も可能となります。ただ、溶接機を使用する場合や、高磁場の職場環境で働く場合には、安全のため職場の電磁環境調査が必要なものもあります。

ペースメーカー植込患者はMRI検査を受けられますか

以前はMRI検査は禁止されていましたが、MRI対応ペースメーカーが普及し、最近は検査が可能となっています。しかし、どこの医療機関でもできるわけではなく、予め承認を受けた医療機関でのみ検査が行えます。直方鞍手地区の医療機関では、くらて病院のみ検査可能です。該当するペースメーカー患者さんは、ペースメーカー手帳とMRIカードを持参し、くらて病院循環器内科を受診ください。

病院では診察せず、自分のペースメーカーの状態を把握できると聞きました。どういうことですか

遠隔モニタリングにより、ペースメーカー患者のデバイス情報を得ることが可能です。ペースメーカーに異常が発生した場合、医療機関を受診しなくても、遠隔モニタリングでデバイス情報を把握することが可能です。この遠隔モニタリングにより、機器の不具合や新たな不整脈の早期発見と早期治療、不要な受診を控えることができ、しかも安全で大きな医療の進歩といえます。ただし、遠隔モニタリング患者では、最低年1回の外来受診が義務付けられています。くらて病院でペースメーカー治療を行っている患者は、6か月〜1年ごとに外来受診をお願いしていますが、全員遠隔モニタリングシステムを導入しています。

【アドバイザー】

安部 治彦 (あべ はるひこ)、医学博士

1985年産業医科大学卒業。米国ケースウェスタンリザーブ大学循環器内科リサーチフェロー、米国グッドサマリタン病院クリニカルフェローを経て、1999年産業医科大学循環器内科・講師、2009年産業医科大学医学部不整脈先端治療学・教授。2024年4月から地方独立行政法人くらて病院・病院長。現在、産業医科大学非常勤講師
循環器専門医、不整脈専門医、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、外国医師臨床研修指導医 (厚労省)。

